

教育目標 「豊かな心で たくましく 自分の人生を切り拓く 生徒」

重点目標 「豊かな心 確かな学力 健やかな身体」

あ さ ひ こ

佐渡市立畑野中学校 学校だより

令和6年12月24日(火) 第6号

著・編 校長 福井 晴人 (TEL 66-2058)

<http://hatano-js.sado.ed.jp/>

E-mail hatano-js@sado.ed.jp

中朝日子

良いお年を
お迎え下さい



令和6年を振り返って



令和6年もあと1週間ほどで終わろうとしています。どんな1年間だったのでしょうか。今回は、生徒を代表して次の3人に、今年の生徒会や畑野中学校について振り返ってもらいました。また、18日には次年度の生徒会役員選挙も行われ、次年度の生徒会役員が決まりました。1月号には新役員の皆さんに抱負などを語ってもらおうと思います。併せてお読みください。

生徒会長 S.H

僕は今年一年間生徒会長として活動してきて感じたこと学んだことなどがたくさんありました。僕は二年生の時、友人たちに勧めていただき生徒会長に立候補しました。『粉骨砕身』をモットーに生徒会長としての役割を精一杯頑張ってきました。最初は専門委員会での進行の仕方が分からなかったり、いい意見が出せなかったりと何もうまくいかず、「先輩方の団結力はすごかったな。」と改めて感じさせられました。しかし、生徒会本部のメンバーにも恵まれ、自分には思いつかない意見を出してくれたり、進行を進めやすいよう支えてくれたりと、とても良い雰囲気を作ってくれました。みんなで協力して活動することの大切さを学ぶことができました。体育祭の学年種目を決めたり、有志発表の計画を立てたりと、どうやったら楽しい行事になるかをみんなでたくさんの意見を出し合いました。頑張った甲斐もあり、今年度のどの行事もとても良い思い出となりました。

今年一年間生徒会長ができて、本当に良かったと感じています。

生徒会副会長 H.S

今年度の生徒会活動を振り返ると、生徒会役員全員で協力して活動できた一年だったと思います。全員で行事の計画を立てたり、日常活動や行事で全校を引っ張ったりして頑張ってきました。また、行事などをとおして畑中生徒全員が、どうすればより良い活動になるかを考え、自主的に活動する生徒が多くなったと感じます。一人一人が考え行動する姿は、まさに「想像を現実に」というスローガンにぴったりだったと思います。しかし、今年度の活動で解決できなかった課題や、新しく見つかった課題も幾つかあります。その課題を、生徒会を中心に、畑中生徒全員で協力して解決して欲しいと思います。

最後にこの一年の生徒会活動に関わってくれた生徒会の皆さん、ありがとうございました。また、来年度の生徒会活動を担っていく皆さん、よりよい畑野中学にするという想像を現実にできるように頑張ってください。

応援団長 H.Y

今年度、応援団長を務めた H.Y です。僕は、クラスの中から応援団長の候補の二人に選ばれ、勇気を出して応援団長に立候補しました。最初は不安なことも多かったですが、やるからには、全力でやろうと決心しました。

応援団長になり、去年より少し人数が減りましたが、激励会などでは、一人一人がやるべきことをして、自分が指示をしなくても自発的に動いてくれる応援団で、とても頼りになりました。

応援団の活動として、激励会を三回やりました。最初は人前に立つのは緊張するし、まとめられるか不安でしたが、徐々に人前で話せるようになり、人をまとめられる力がついたと思っています。応援団長としての活動を通して培った力を、高校でも生かして頑張ります。

「第74回社会を明るくする運動」作文コンテスト

特別賞(新潟県保護司会連合会長賞)おめでとうございます!

新潟県保護司会を中心とした活動「社会を明るくする運動」では、毎年、中学生から作文を募集しています。畑野中からも3年生のKさんが素晴らしい賞に入賞しましたので紹介します。全文を掲載しますので一読ください。

「明るい社会は、みんなで作る」 3年 K.M

“社会を明るくする運動”とはどのようなことなのだろうと、考えても分からず、私にできることなんて何もないと思っていた。

ニュースでは毎日のように、殺人、詐欺事件、飲酒運転の事故やストーカー、窃盗や薬物依存症など、怖くて、気持ちが暗くなることばかり、中でも二十歳に満たない、私と同じような年齢の子が、事件を起こす少年犯罪が気になり調べてみようと思った。

非行の原因はいくつかあった。学校に行く意味を感じられず不登校になったり、学校が楽しくない、魅力を感じない、学校でのトラブルや人間関係がうまくいかなかったり、学校以外の居場所を求めてしまう。友達や先生にも相談できず、孤独になる。

家庭では、親から愛されていないと感じたり、親が厳し過ぎたり、暴力を振るわれたりなど、一日の三分の二を過ごす家で、居場所がなくなる。会話もなくなり、顔を合わすことも苦痛になる。そのような環境で過ごしていたら、自分は周囲の人と違うのではないかと、周囲からどう見られているか気になる。自分は何もできていないのではないかとこの気持ちを持ってしまい、非行に走るケースがあるという。今さえ良ければいい、自分の気分を優先する、後のことを何も考えず犯罪を繰り返してしまう。どこかで自分のしていることが悪いと分かっている、そうすることでしか、自分の居場所を作れないのかもしれない。

非行を繰り返す少年たちを立ち直らせるためには、どうしたら良いのでしょうか。自分の行動によって、傷つくことになる人の気持ちを思いやることができず、人の迷惑などお構いなし、感情のままに突っ走る人たちに、解決策があるのか考えてみた。大事にされる経験不足があるように思う。自分が大事な存在であるという実感を持っていないので、他の人を大事にすることの大切さに気づくことができないのだと思う。自分は大事にされている、愛されているという実感を与えることが必要なのだと思う。そういう安心感を経験させることで、少しずつ人に対する思いやりの感情が芽生えてくる。そして、これまでの自分の行動でどれだけ多くの人を傷つけたのかを考えられるようになり、反省できるようになるのでしょうか。たくさんの人に愛されている、良いところがたくさんある、と言葉で伝えることこそ、立ち直るきっかけや出発点になっていくのだと思う。

私も勉強は好きではなく、学校へ行く理由が分からない時期もあった。辛いこともあるし、悲しくなることもあるので、学校へ行きたくない時も、今までたくさんあった。それでも学校は勉強以外に、色々なことを経験する場所でもある。困った時に助けてくれる先生や、楽しい話で盛り上がる友達がいる。家に帰っても、私のことを考えて、愛してくれる家族がいる。そんな家で過ごす時間が大好きだ。今まで当たり前のことだと思っていたことが、実はとても大事なことなのだと気付いた。

自分が困った時や苦しい時は、勇気を出して誰かに相談することが大事だと思う。そして誰かに相談された時は、優しさと思いやりを持ち、できるだけ相手に寄り添って話を聞いてあげる。誰でも悩むことも失敗することもたくさんある。弱いところを見せるのが、恥ずかしいことだと感じさせない、「ひとりではないよ」と伝えてあげる。そんな人たちが周りに増えると、犯罪や非行も少しずつ減っていくのではないかと。ひとりで明るい社会を作ることは難しい。多分無理だと思う。協力し合える誰かと一緒に、信頼できる誰かがひとりでも多く、全ての人の近くにいてほしいと願う。そんなささいな積み重ねが、社会を明るくするのだろうと、私は思う。

おめでとうございます!

【令和6年度中学生「税についての作文」コンテスト】

- 佐渡市長賞 2年 S.H

【第74回「社会を明るくする運動」作文コンテスト】

- 特別賞(新潟県保護司会連合会長賞) 3年 K.M

【令和6年度全国中学生人権作文コンテスト新潟県大会・佐渡大会】

- 奨励賞 2年 Y.K

【令和6年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール】

- 中学校の部 佳作 1年 W.Y

【令和6年度佐渡歯科医師会「歯科保健図画・ポスター・標語展」】

- 歯科標語の部 優秀賞 3年 K.M

- 歯科保健図画・ポスターの部 優秀賞 1年 W.Y

